

『伏見区総合庁舎整備』ワークショップ通信

第4号 平成20年5月24日 発行

市民参加で”伏見らしさ”を凝縮した 新総合庁舎設計図面ができました

伏見らしさー2
「環境先進区 伏見」
にふさわしい
環境共生型の庁舎

伏見らしさー1
「伏見らしさ」を
表現した
外観・外構

伏見らしさー3
すべての人にやさ
しいユニバーサル
デザインの導入



伏見らしさー4
区民の多様な活動や
交流の拠点となる
交流スペース

伏見らしさー5
ワークショップで
市民の意見を反映
した庁舎

伏見らしさー1

「伏見らしさ」を表現した外観・外構

伏見ならではの「酒蔵」をイメージしデザインした庁舎、「伏見の水」を表現した“水路”や“水盤”など、伏見らしさを凝縮し、周辺環境に調和した外観・外構となっています。

- ・外観では、伏見らしさの象徴として街路樹に「柳」を、庇の色に酒蔵のイメージの「灰色」を、さらに伏見桃山にちなんで「花桃」を採用するなど、ワークショップでの意見・要望を反映しました。
- ・外構では、“安心・安全”に配慮し「歩行者の安全対策として駐車場内の歩行通路を表示」「雨天時の対策として車いす駐車場の庇を車寄せまで延長」「タクシーの乗降場所を設定」などを反映しています。

ワークショップでの意見・要望を反映した総合庁舎イメージ

事業者提案イメージ



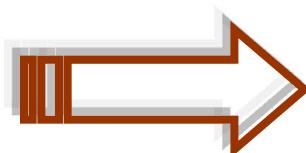
庇は酒蔵をイメージした灰色



建物の内部で伏見の水を表現した「水盤」



「伏見の水」を表現した水路



伏見らしさを象徴した柳の街路樹イメージ



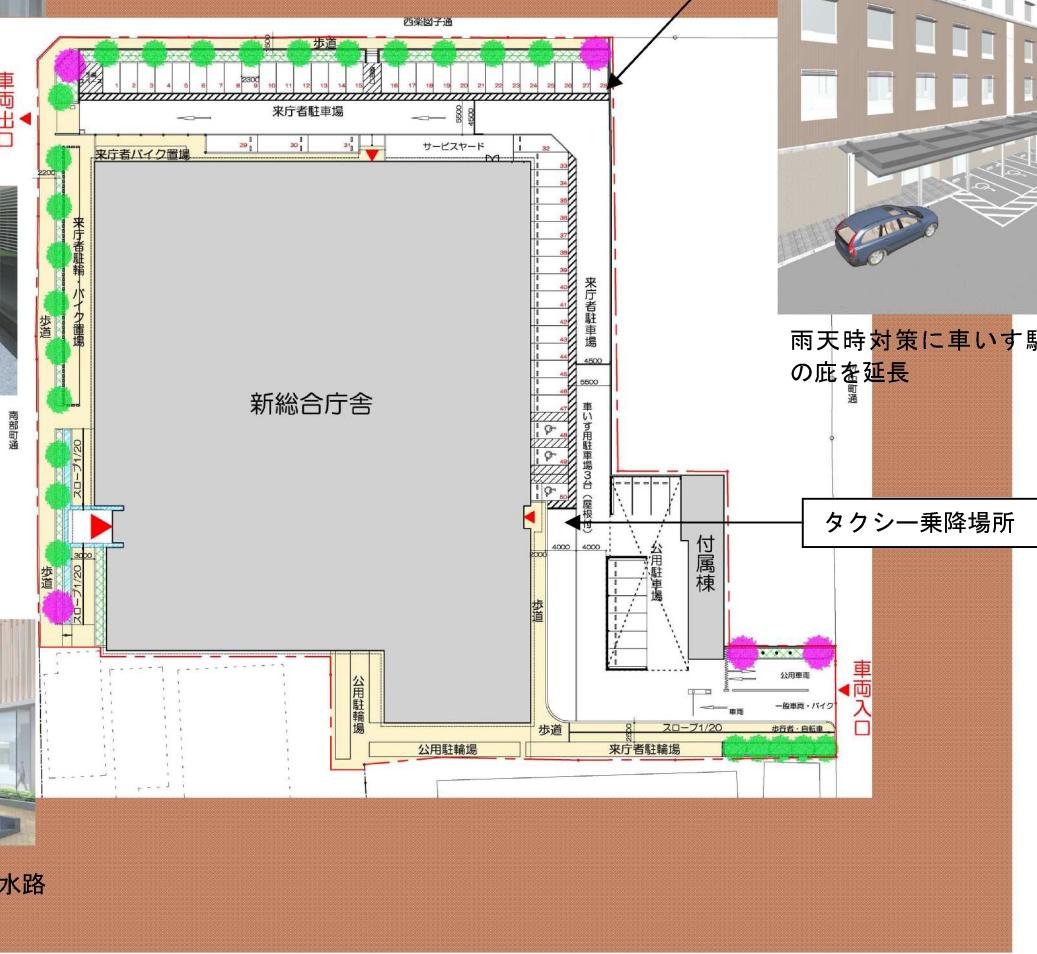
伏見桃山にちなんで花桃を植樹



歩行通路を表示



雨天時対策に車いす駐車場の庇を延長



伏見うしさー2 「環境先進区 伏見」にふさわしい環境共生型の庁舎

「環境先進区 伏見」にふさわしく、自然エネルギーの活用、雨水や井戸水の利用、緑化空間の確保など、環境との共生に配慮した庁舎としています。

- ・自然のもたらす「光」や「風」を利用し、中庭の設置による自然採光、オープン階段による自然換気の確保を図るとともに、太陽光や雨水、井戸水のエネルギー利用を図るなど環境と共生した庁舎としています。
- ・西側・北側沿道や屋上の緑化などで縁あふれる空間を確保し、ヒートアイランド現象の抑制を図ります。

自然エネルギーの有効活用

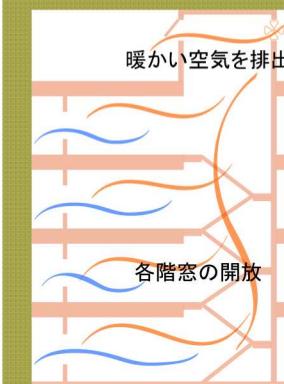
- 大容量の太陽光発電パネル設置
- 光庭による自然通風・採光
- オープン階段を利用した自然換気



太陽光発電パネル

省エネルギー

- 高効率蛍光灯の採用
- 調光センサーによる照明出力制御
- 庇付き窓やルーバーによる日射の低減



オープン階段イメージ



中庭の採光

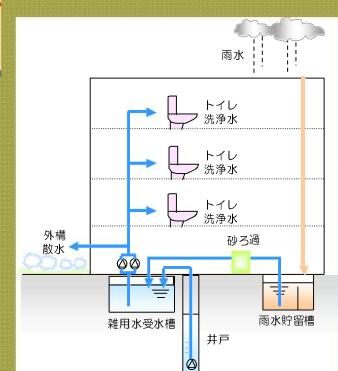
雨水・井戸水の利用

- 井戸水の（空調への）熱源利用
- トイレ洗浄水、外構散水
- 水路、水盤の水に利用

調光センサーによる照明出力抑制



井戸水の熱源利用イメージ



雨水・井戸水のトイレ洗浄水・外構散水利用イメージ

緑化空間の確保

- 屋上緑化
- 西側・北側沿道における街路樹の植樹



屋上緑化のイメージ

伏見うしさー3 すべての人にやさしいユニバーサルデザインの導入

年齢、性別、言語、習慣、心身の状態にかかわらず、子どもから大人まで、すべての人が安心、安全に使える施設とっています。

●屋外施設における配慮

- 歩車道境界部分は安全性に配慮した段差としています。
- 歩道部分は防滑性が高く、目地の小さいバリアフリー対応タイプの素材を使用します。
- 「辻標（つじしるべ）」の設置
西楽図子通りと南部町通りの交差点部分に設置します。辻標（サイン）は多言語による表記として、多様な観光客に配慮します。
- 西側の歩道からメインエントランスへのアプローチは、緩やかな勾配と余裕ある幅員により車いす、ベビーカー等でも容易に通行できるように配慮しています。
- 道路から東西の入口及び総合案内サインまで点字ブロックを敷設します。



辻標（つじしるべ）
のイメージ

●屋内施設における配慮

- 屋内には段差を設けず、待合スペースの広さに余裕を持たせるなど、車いすやベビーカーでの移動に配慮しています。
- 滑りにくく安全に施設利用できる床材を採用します。
- エレベーターは13人乗りを採用し、車いすを使用していても余裕のあるものとします。
- 受付や相談の窓口カウンター、申請書等の記載台は、車いすでの利用がしやすいように高さの低いものも設置します。
- 主階段の手すりは高低の2段とし、下の手すりは誰でも握りやすいように細くします。
- オストメイト（人工肛門・人工膀胱造設者）対応設備を装備した車いす対応多目的トイレを設置（男女別）します。



2段手すりイメージ



ベビーチェア



子ども用ベッド
(2~4階)



オストメイト対応設備



大人用ベッド(1階)

事業者提案に、ワークショップでの意見や要望を加えました。

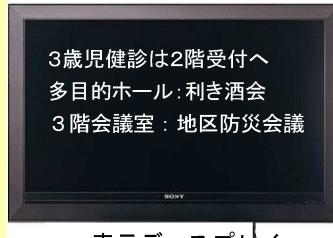
- 東西エントランス、総合案内表示、各階案内表示、エレベーターに音声案内装置を設置します。なお、総合案内表示には問い合わせ用インターホンを組み込みます。
- 表示ディスプレイと各階の掲示板にて催し案内を行います。
- 多目的ホールと4階市民交流会議室に赤外線補聴システム、磁気ループ補聴システムを設置します。
- 災害時の避難誘導として警告音とフラッシュ（点滅光）の装置を設置します。



赤外線補聴システム



総合案内表示イメージ
(音声案内機能付き)



3歳児健診は2階受付へ
多目的ホール：利き酒会
3階会議室：地区防災会議

表示ディスプレイ



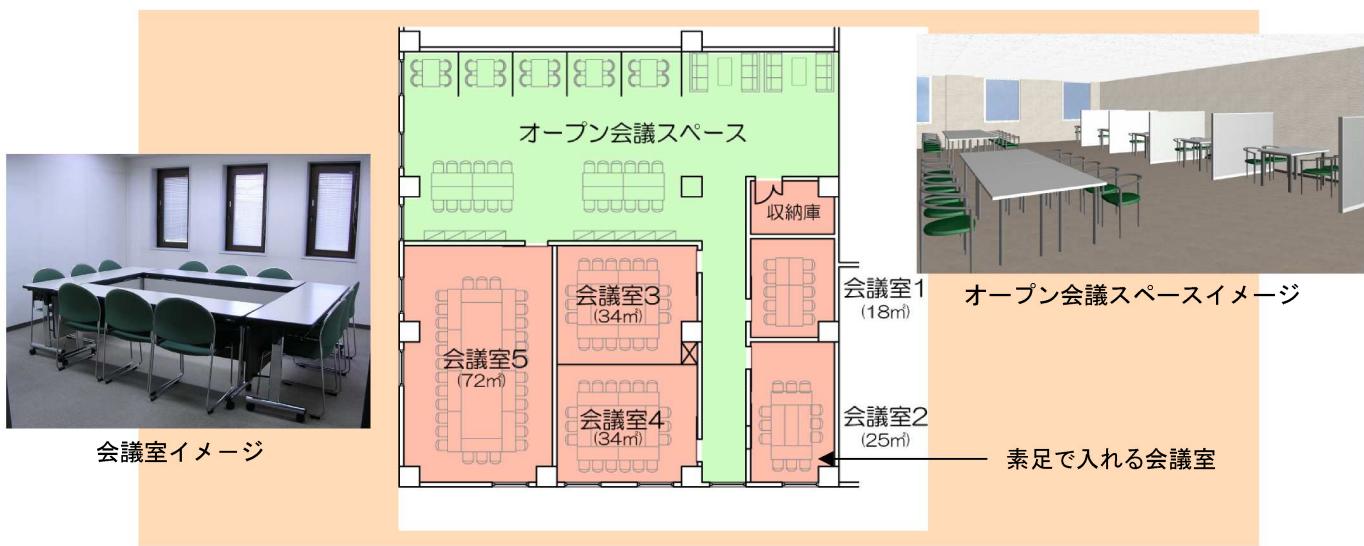
磁気ループ補聴システム

伏見うしさー4 区民の多様な活動や交流の拠点となる交流スペース

- 区民ロビーは、親しみやすく利用しやすいように気軽に交流できる談話ゾーンと伏見の情報発信を図る展示ゾーンを想定しています。
- 多目的ホールは“講演・研修の場”や企画展示などの“発表の場”を想定しています。



- 会議室は団体・グループなどが多様な用途に利用できるように大小の会議室を設けています。また、気軽に使えるオープン会議スペースや、子ども連れの方も利用しやすいように、素足で入れる会議室なども設けています。



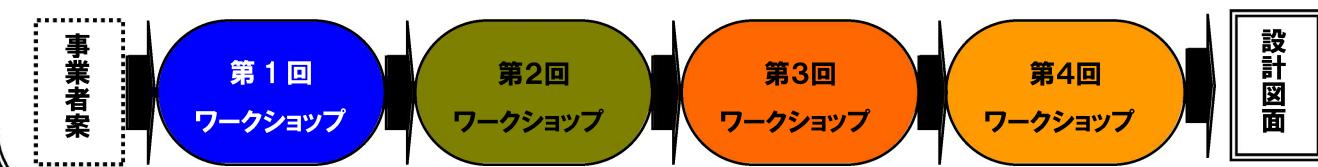
伏見らしさー5 ワークショップで市民の意見を反映した庁舎

●ワークショップには、全4回で延べ約240名もの方々に参加をいただきました。“総合庁舎への期待や思い”に基づく多数の意見・要望をいただき、親しみやすく、愛される地域の拠点として設計図面に反映することができました。

ワークショップとは

ワークショップの語源は職人や芸術家の共同工房のことです。まちづくりの場面では、参加者が同等の立場で知恵や創意を出し合い、共同で「もの」や「こと」を創造していく活動や場を指します。

新総合庁舎の設計ワークショップは、市民、事業者、京都市がパートナーとして、自由な意見交換を通じて、共に新総合庁舎の整備を図るための“場”として実施しました。



第1回 「新総合庁舎案をのぞいてみよう」 平成19年11月11日

●事業者から新総合庁舎整備案を提案しました。

外観・外構及び階構成をスライドにより、諸室の内部構成をCG（コンピューターグラフィックス）を用いた映像的手法により説明しました。

●新総合庁舎整備案の「いいところ」「気になるところ」を議論しました。

事業者案を基に、植栽や酒蔵イメージ、多目的ホールや会議室の多様な利用、区民ロビーの情報発信機能、さらに弱視者や難聴者への配慮などについて、議論を重ねました。こうした議論を大きく「外観・外構・施設全体」、「市民交流スペース」、「バリアフリー」に分類し、意見・要望の整理を行いました。



第2回 「新総合庁舎を語ろう」 平成19年11月25日

●整備案に対する意見・要望への回答



前回出された意見・要望を踏まえ、「外観・外構・施設全体」、「駐車場」等についての改善策の提示とともに、市民交流スペースのあり方や誰もが使いやすいユニバーサルデザインへの提案をしました。

●「ユニバーサルデザイン」「市民交流スペース」をテーマに、図面を活用し、使い方やあり方を議論しました。

「ユニバーサルデザイン」では屋内外の施設や案内システムへの配慮などについて、「市民交流スペース」では会議室、喫茶・食堂、展示スペース、多目的ホールなどの使い方について、意見や要望がだされました。

第3回 「新総合庁舎を楽しもう」 平成19年12月15日

新総合庁舎設計への市民の意見や要望を取りまとめました。

- これまでのワークショップにおける参加者からの意見・要望を踏まえた具体案を提示しました。

「外観」、「外構」、「市民交流スペース」（区民ロビー、多目的ホール、会議室）の仕様、ユニバーサルデザインなどについての具体案を提示しました。



- 市民交流スペースについて、事業者の具体案がこれまでの意見・要望を踏まえているかどうかを評価し、それを基本に議論しました。

「区民ロビー」「多目的ホール」「会議室」で構成する市民交流スペースについて、あらかじめ設定した15の項目に、「賛成」「反対」で評価を行い、その結果を基に議論を行いました。

第4回 「設計図面で確認しよう」 平成20年3月23日

市民の意見や要望を反映させたかについて、設計図面で確認し、これまでの成果を発表しました。



- これまでの意見や要望を反映した図面を、スライドやCGでイメージを交えて、紹介しました。

「伏見らしい外観・外構」「環境共生」「ユニバーサルデザイン」「市民交流スペース」の設計上の特徴について、スライドで説明をしました。さらに各階を来訪者の視点で見たイメージをCGで紹介しました。



- “新・旧図面の比較”をスライドで紹介しました。

ワークショップでの意見・要望がどのように反映されたか“新・旧図面の比較”で確認しました。

- 市民交流スペース等の運営についての課題を説明しました。

ワークショップでの「運営」に関する意見を、休日や夜間などの「利用時間」、多目的ホールや会議室などの「利用方法」、市民交流スペースなどの「運営組織」、展示スペース、会議室などの「管理」、「備品・しつらえ設え」に分類・整理し、課題解決に向けての説明をしました。

●参加者からのアイデア（新総合庁舎工事中の市民参加のアイデア募集）

見学

- ・工事の様子を中に入って見学させてほしい。

描く

- ・工事の防音壁の活用について、子ども達に手形をつけてもらうのもよいのでは。

ニュース

- ・二ヶ月に一回、工事の過程を伝えるニュースを発行する。

現場の人の協力

- ・子どもの通学時の安全を見守ってもらう。

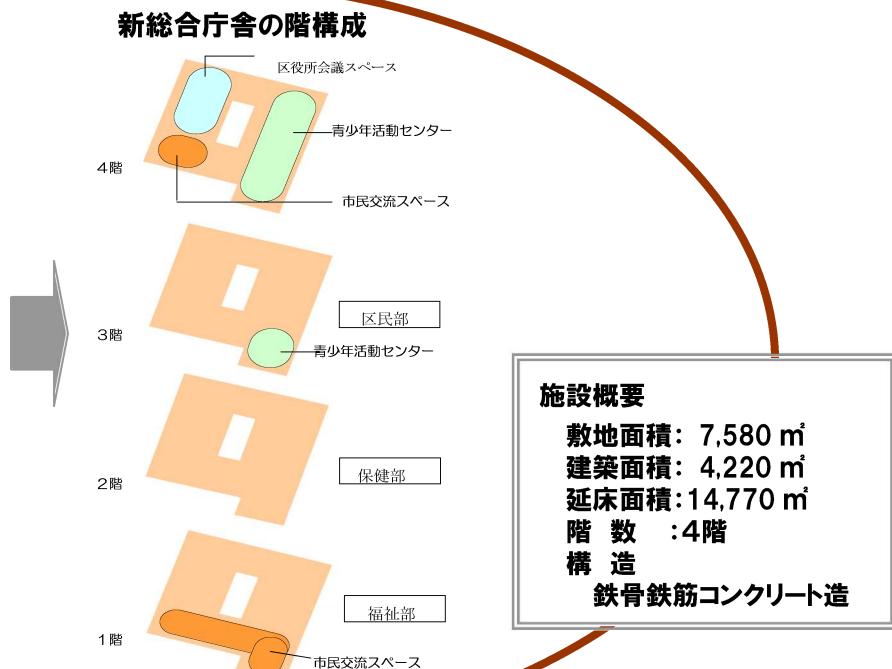


ワークショップに参加しての「思い」

参加者のみなさんからは…

- 区民の意見が極力反映されるよう努力されているのが伝わってきた。
- 多くの参加者があり、参加者の意見もよく反映されているのではと思う。より市民にとって利用しやすい庁舎になりワークショップ開催の意義があったと思う。
- 当初の計画からワークショップの意見を通じて、どのような変更が行われたのかよく解った。
- 具体的な新総合庁舎について、実際に市民の声を反映できる機会として、たいへんよかったです。
- 新総合庁舎がよく解った。色々変更してほしい部分が少しづつ形になった。

新伏見区総合庁舎整備の概要



新伏見区総合庁舎整備の経緯と予定

平成 16 年 11 月 整備基本計画策定のためのワーク
ショッピングの開催

平成 17 年 3 月 「私たちが考える望ましい伏見区
総合庁舎提案書」の提出

平成 17 年 8 月 整備基本計画策定

平成 18 年 12 月 入札公告

平成 19 年 6 月 藤井組グループを落札者と決定

10 月 事業者との契約締結

平成 19 年 11 月 第1回設計ワークショップ
第2回設計ワークショップ

12 月 第3回設計ワークショップ

平成 20 年 3 月 第4回設計ワークショップ

平成 20 年 5 月 工事着手予定

平成 22 年 1 月 新庁舎供用開始